

令和4年度 江戸川区立瑞江第二中学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	自立・貢献・生き抜く力	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	安心して登校し、安全に生活し、満足して下校できる学校 ①確かな学力を身につけ進路を切り開く生徒 ②豊かな心・人間性を磨く生徒 ③健康な体づくりに積極的に取り組む生徒 ①自己のライフ・ワークプランの実現 ②人間味あふれる教育の実践 ③服務の厳正 ④向上心と授業改善
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p>&lt;成果&gt;落ち着いた学習環境を創りあげ、全教科等で協同的な学習を取り入れ、生徒同士の学び合いを実現することができた。SDGsの視点で環境問題や教育格差、ジェンダー平等などについて調べ、課題解決の方策を考え、発表することができた。教科等を横断した生徒に身に付けさせたい力を明らかにして教育活動を進めることができた。</p> <p>&lt;課題&gt;新型コロナウイルス感染症の影響により、教育活動に様々な制約が加わる中で、対話や発表、体験活動等の感染リスクの高い教育活動を充実するための工夫について一層研究を進めること。</p>		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	○生徒の課題に正対した「確かな学力向上推進プラン」が作成・実施されているか。 ○教科等のねらいを実現するための一人一台端末の活用となっているか。 ○学力低層層の学力向上が図られているか。	○学力調査や定期考査の結果を分析し、生徒の課題に正対した学力向上プランを作成・実施する。実施状況について管理職が日常的に授業観察を行い指導・助言を行う。 ○ICT機器活用の教員研修を行うとともに、ICT支援員と連携し効果的な活用について研究する。 ○外部講師による数学の補修教室を実施し、学力低層層の学習意欲の向上を図る。	○学力調査における平均正答率を3ポイント以上向上する。定期考査における達成率20%未満の生徒を3%以上低減する。 ○生徒アンケートにおける「ICT機器の活用」に関する設問に対する肯定的回答を70%以上とする。 ○生徒アンケートにおける「授業への取組」に関する設問に対する肯定的回答を70%以上とする。	B	B	令和4年度全国学力・学習状況調査では、数学において第3四分位の値が都の平均を1問下回った。習熟の程度の低い学習集団に基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる指導を一層充実するとともに、外部講師による数学の補修教室の活用促進を図ることが課題である。	B	生徒が学校での学びと実生活との結びつきを実感できるような指導を充実してほしい。  ○習熟の程度の低い学習集団に基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる指導を一層充実するとともに、外部講師による数学の補修教室の活用促進を図る。  ○ICT機器を活用した導入や発問の工夫、個人思考とグループでの意見交換の併用などの学習形態の工夫等により、生徒が学校での学びと実生活との結びつきを実感できるような指導を充実する。
	体力の向上	○オリンピック・パラリンピック教育で学習した運動への多様な関わり方「する・みる・支える・知る」を踏まえた取組を大会後も継続しているか。	○保健体育の授業での補強運動や休み時間における主体的な運動を「東京2020大会レガシー」として位置付け、日常的な運動の実施による体力と運動意欲の向上を図る。	○生徒アンケートにおける「体力・運動意欲向上」に関する設問に対する肯定的回答を70%以上とする。	B	B	東京2020オリンピック・パラリンピックの成果等を踏まえ、大会後もオリンピック・パラリンピック教育を推進することで、チャレンジ精神やフェアプレー精神、また多様性について生徒が理解を深めることが課題である。	B	オリンピック・パラリンピック教育を一過性のものとしてず、継続的に取組を進めてほしい。  オリンピック・パラリンピック教育を一過性のものとしてず、大会後も「レガシー」としてオリンピック・パラリンピック教育を推進する。
	読書科の更なる充実	○読書や学校図書館の活用を通じた探究的な学習の充実が図られているか。	○朝読書の継続 ○自分の紹介したい本についてピリオドの実施 ○図書室の利用による調べ学習の実施	○生徒アンケートにおける「学校図書館利用」に関する設問に対する肯定的回答を70%以上とする。	B	B	朝読書の時間を確保するとともに、本から得た知識等を深めたり、課題に感じたことの解決策を考えたりする活動を一層充実することが課題である。	B	江戸川区の公立小・中学校の特色であるそうなので推進するとともに取組内容を分かりやすく発信してほしい。  各学年の発達段階に応じてSDGsの視点から課題を推進するとともに取組内容を分かりやすく発信してほしい。この解決策を考えたり、考えたことを発表したりする活動を一層充実する。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実が図られているか。 ○交流及び共同学習の充実が図られているか。	○ジェンダーフリー制服、男女混合名簿の導入 ○学校行事等において交流及び共同学習を実施する。	○生徒アンケートにおける「学校生活への満足度」に関する設問に対する肯定的回答を70%以上とする。	A	A	ジェンダーフリーに関する教職員・生徒の意識は確実に高まっている。今後も少数者が生きづらさを感じない学校づくりに向けて教員研修及び生徒指導を継続していく。	A	ジェンダーフリーに限らず、少数者が暮らしやすい環境は大切であるとする。今後も指導を継続してほしい。  少数者が生きづらさを感じない学校づくりに向けて教員研修及び生徒指導を継続する。
	子どもたちの健全育成	○問題行動への対処だけでなく、全ての生徒に対する健全育成の取組が具体的に実施されているか。	○年間2回のQ-Uテストの実施と結果の分析を指導に生かすための分析会の実施及び具体的な指導の充実	○生徒アンケートにおける「学校生活への満足度」に関する設問に対する肯定的回答を70%以上とする。	A	A	Q-Uテストの結果を分析し、学年のみならず全校で共有して指導に当たることができた。また、相談週間、SCによる全員面接、ヤングケアラー支援に向けた全員面接の実施などにより、生徒理解を深めることができた。	A	2回目のQ-Uテストを効果的に活用し、個に応じた指導を一層充実する。分析会の結果を確実に次の学年に引き継ぐことで、異動等によらない安定した生徒指導を実現する。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	○学校関係者評価等の結果が教育活動の改善に具体的に生かされているか。	○学校関係者評価等の結果を踏まえた教育課程の編成と実施	○学校関係者評価等における肯定的評価の割合を向上する。	B	B	1学期に学校評議委員会を開催し、学校関係者から意見を聴取した。新型コロナウイルス感染症の影響で中止が続いている「みずほ祭り」などの地域と連携した教育活動を再開するための具体的な方策を検討することが課題である。	C	「みずほ祭り」など地域と連携した教育活動を再開するための具体的な方策を検討する必要があると考える。  新型コロナウイルス感染症の影響で中止が続いている「みずほ祭り」などの地域と連携した教育活動を再開するための具体的な方策を検討、開催方法の変更等の検討に着手する。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	○教員の在職時間の縮減が実現されているか。	○SSSの活用 ○副校長補佐の活用	○教員の在職時間を3%以上縮減する。	C	C	SSSスタッフや副校長補佐の活用は進んでいるものの、依頼できる業務に限られていることから、外部人材の活用だけでは目標達成は困難である。一人一人が前例踏襲の意識から脱却し、積極的に業務内容の見直しを図ることが課題である。	B	教員の働き方については、報道等で仄聞する程度での、実際の業務の激務なのか分からない部分もある。学期中と長期休業中とでもまた状況は違おう。業務の縮減等が子どもたちの教育の質の低下につながることはないよう留意してほしい。  「プレゼンテーション能力の育成」を中心に据えた瑞江二中の教育は評価できる。成果を外部に発信する機会をつくと更にいっしょと思う。
		○生徒のプレゼンテーション能力の向上を図る取組が効果測定可能な方法で行われているか。	○教員及び生徒対象の研修会・講演会を実施する。 ○総合的な学習の時間及び各教科で発表の機会をつくとともに、開発した「プレゼンテーション能力の評価表」を用いて生徒のプレゼンテーション能力を客観的に捉える。	○生徒アンケートにおける「プレゼンテーション能力」に関する設問に対する肯定的回答を70%以上とする。 ○「プレゼンテーション能力の評価表」における生徒の達成度を平均10段階以上とする。	A	B	令和4年度全国学力・学習状況調査では、数学において、「説明する」、「表現する」などの問題で、都の平均正答率を上回ることができた。本校の特色である「プレゼンテーション能力の育成」を推進するために、今後も全ての教科等で問題を解く過程や、考えたこと	B	「プレゼンテーション能力の育成」を推進するために、今後も全ての教科等で問題を解く過程や、考えたことを表現する活動を重視した指導を継続していく。外部講師から得たプレゼン指導のポイントを教員が指導できるように研修を深める。